



Title	グローバルヘルス合同大会 日本セルフケア推進協議会 共催ランチョンセミナー報告
Author(s)	岸, 智明
Citation	目で見るWHO. 2021, 76, p. 14-16
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86483
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

グローバルヘルス合同大会 日本セルフケア推進協議会 共催ランチョンセミナー報告



日本セルフケア推進協議会 国際連携部 部長
岸 智明

岐阜薬科大学卒業、1991年興和株式会社入社。同社の医療用医薬品等の事業開発部門、米国駐在、国際営業部門を経て2020年セルフケア推進室国際連携部並びに現職。

セミナーの概要

2020年11月1日(月)から3日(水)に完全オンライン形式にて「グローバルヘルス合同大会 大阪2020」が開催され、海外24か国より約1400名の参加者がありました。そしてこの合同大会にて、本大会と日本セルフケア推進協議会との共催ランチョンセミナーが11月2日(火)に開催されました。本セミナーは、共催者の日本セルフケア推進協議会の代表理事(会長)の三輪芳弘氏の挨拶で開会し、公益社団法人日本WHO協会理事長の中村安秀氏を座長とし、一般社団法人Medical Excellence JAPAN(以下MEJ)理事長の近藤達也氏を演者に迎え「世界が求める医療の国際展開」という講演でした。

日本セルフケア推進協議会とは

本セミナー共催者である日本セルフケア推進協議会は、2019年1月に設立された団体です。本協議会は、医師、薬剤師、医薬品企業、薬局・ドラッグチェーン、民間保険会社、自治体、大学等産官学の垣根を超えて広くヘルスケア分野より有識者が参画し、横断的な情報交換により日本のみならず様々な国で直面している少子高齢化や人口減少に対し急務となっている「健康寿命延伸」に寄与すべく、生活者中心にヘルスケア全体を考えるための様々な調査やオープンな意見交換、それに基づく各方面への提言を行っています。そしてその活動において「ジ

ェロントロジー(高齢化社会工学)」、「デジタルトランスフォーメーション」、「アジアダイナミズム」といった時代に即した重要なキーワードを掲げていることもこの協議会の大きな特徴です。

ランチョンセミナー共催の背景

日本セルフケア推進協議会では、ヘルスケア分野の情報収集・発信をその活動の一つとしており、関連学会・団体との連携を大変重要視しています。本セミナーにてMEJの事業活動を紹介することもこの情報発信活動の一環でありました。MEJは、日本国政府が実行している「健康・医療戦略」の国際展開の中核を担っており、且つ政府、医療界、産業界との相互協力のもと医療サービス・医療技術を通して世界の人々の健康、福祉及び経済の発展の貢献を目指しており、大会参加者にとって大変興味深い講演でした。(スライド1)



左 日本セルフケア推進協議会 代表理事(会長)三輪芳弘氏
右 演者 一般社団法人Medical Excellence JAPAN 理事長 近藤達也氏

「世界が求める医療の国際展開」 ①～「日本の医療」の目指す姿

近藤理事長は、日本は世界の最先端医療を享受できる国家であり且つその優れた国民皆保険制度等により、「先進性」、「公平性」、「普遍性」、「スピード感」で欧米諸国を凌駕する立場であると示しました。また日本はICHの1極を占めているだけではなく新有効成分の薬剤開発品目数や新薬審査期間短縮では世界の上位に位置し、まさに世界の中での薬事大国でもあると示しました。このような健康医療先進国の日本に対して、MEJが目指す姿とは世界の医療のオピニオンリーダーとなり新しい社会価値を提示すること、そして日本の医療・医学、その制度を含め改革をリードするハブとなることとしています。その結果として日本の医療を世界ブランドにしていこうになるとも言及しています。(スライド2)

そのMEJが目指す世界とは、レギュラトリーサイエンスの手法による「患者中心の合理的医療」が各国に普及し、各国の医療の質を向上する絶対的価値観として共通言語化され、そして医療を通じて互恵的な新しい安全保障の国際秩序が作りあげられるものとしています。(スライド3)

「世界が求める医療の国際展開」 ②～MEJが進める中期計画

MEJの中期計画での具体的な活動は「四次元医療改革研究会」、「MExxの実現」、「Meets JAPAN」の3事業となっています。(スライド4)

日本が先進性のある医療を提供し続けるための課題の解決を目的とするのが「四次元医療改革研究会」です。これは国内中心の考え方を「二次元」とし、そこに海外展開を含めたものを「三次元」、更に将来という時間軸を組み入れたことで「四次元」と称しています。本研究会ではMEJ会員のみなならず、医療関係者、産業界、教育・研究機関等よりその声を集約し、独自選定の有識者で調査・議論を重ね、課題解決のための日本政府への提言や各界への協力要請を図ります。産官学連携を得意とし実効性のある成果を重視するMEJならではの研究会と感じます。(スライド5)

「MExxの実現」の「xx」には「JAPAN」のような国・地域名が入ります。つまり各国にMEJと同じ機能を有する団体を置くというものです。医療の国際展開に

おいて各国の「MExx」間で連携し合うことでより効率的、効果的に推進できるものと考えています。この動きもMEJ独自のものだけではなく、日本の外交政策に準拠する方策をとりより高い実現性を持たせているのがMEJの真骨頂と感じます。(スライド6)

「Meets JAPAN」はその名が示す通り、日本企業と対象国のステークホルダーとの出会いの場の提供です。最終的な医療連携、産業振興等を見据えた場であり、3事業の一連の流れを強く実感します。(スライド7)

最後に、出会いそして予感

近藤理事長より、MEJの活動を通じて、世界有数の産業となっている「医療」に貢献すること、そのための「日本の医療」の継続する発展を牽引することの重要性が強調されました。座長の中村氏よりは、MEJの医学のみならず各種学問及び産業による世界の医療への貢献に強く賛同し、医療の原点の「プライマリヘルスケア」の概念にある、医療の持続的な発展による社会変革、経済発展によって「世界平和」がもたらされるという大きな枠組みをこのコロナ禍において再度見直す必要があるとの重要なコメントがありました。(スライド8)

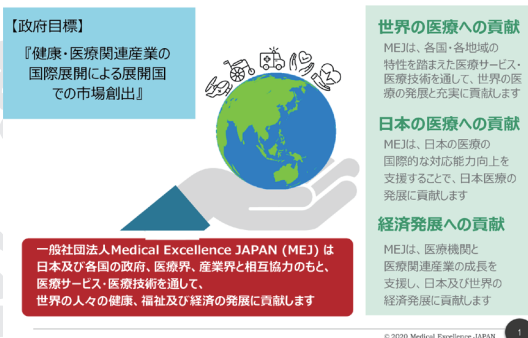
最後に「ユニバーサルヘルスカバレッジ」を掲げる日本WHO協会、「生活者中心にヘルスケアを考える」を提唱する日本セルフケア推進協議会、そして「患者中心の合理的医療」を推奨するMEJ



座長 公益社団法人日本WHO協会
理事長 中村安秀氏

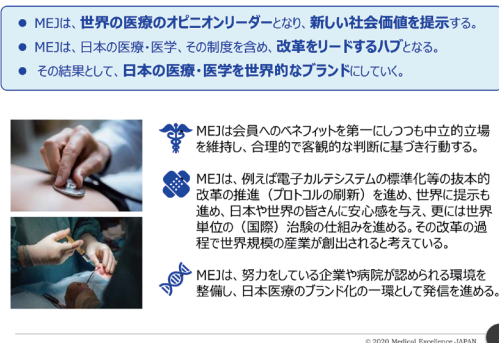
の3団体が期せずしてここで出会いました。「グローバルヘルス」に対して精力的な活動を実践している3団体のこの奇跡の出会い、「No one will be left behind」を求める世界の中で何か新たな「化学反応」を生み出す予感がしてなりません。(日本セルフケア推進協議会は2020年9月に日本WHO協会の法人正会員となり12月にMEJの正会員となっています。)

日本の国際医療展開 - ミッションステートメント



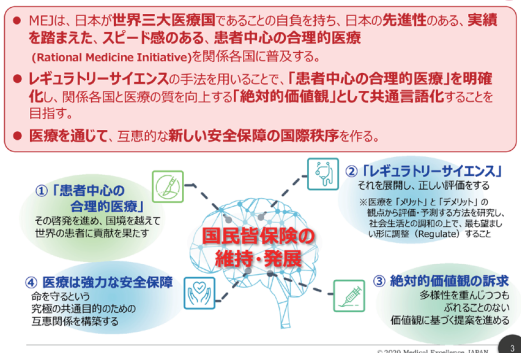
スライド1 MEJミッションステートメント

MEJが目指す姿



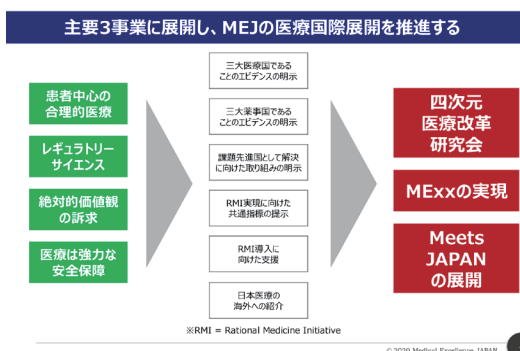
スライド2 MEJの目指す姿

MEJの目指す世界



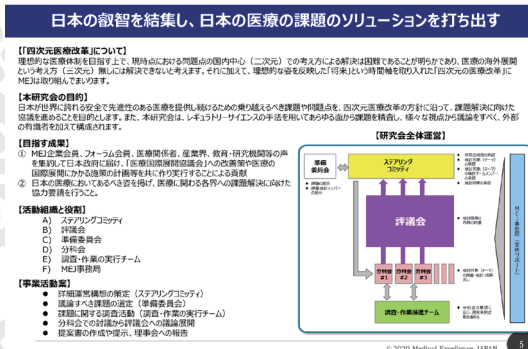
スライド3 MEIの目指す世界

MEJの目指す姿 - 事業への変換



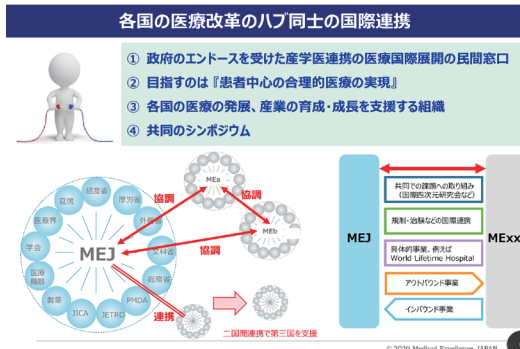
スライド4 MEI 主要3事業

四次元医療改革研究会



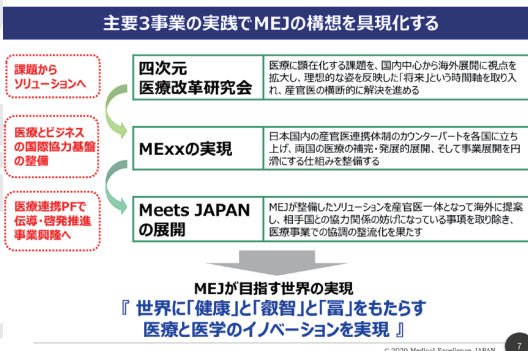
スライド5 四次元医療改革研究会

MExxの推進



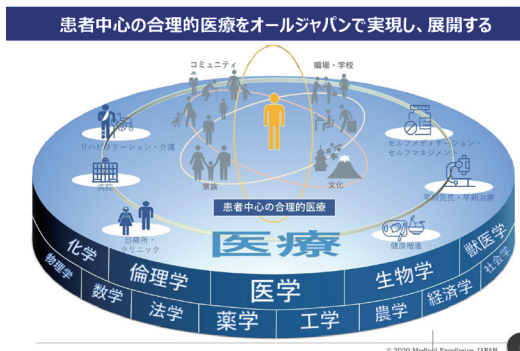
スライド6 MExxの推進

各事業の連携と発展



スライド7 3事業の連携と発展

医療は、様々な学問や業種により支えられ発展してゆく



スライド8 患者中心の合理的医療